

図書館司書コース開講科目

科目コード	科目名	ページ
5701	生涯学習概論	1
5702	図書館概論	2
5703	図書館情報技術論	3
5704	図書館制度・経営論	4
5705	図書館サービス概論	5
5706	情報サービス論	6
5707	児童サービス論	7
5709	図書館情報資源概論	8
5710	情報資源組織論	9
5801	図書・図書館史	11
5803	図書館サービス特論	12
5804	図書館情報資源特論	13

科目コード	科目名	添削者名
5702	図 書 館 概 論	吉植 庄栄 長谷川 栄人
使用テキスト 図書館概論		
著 者 名 浜口美由紀		発行所 近畿大学通信教育部
設題（字数指定 2,000字） 公共図書館（図書館法の定める公共図書館）を1つ選び、レポートを作成しなさい。以下について記入すること。 <ul style="list-style-type: none"> ・図書館の正式名称と所在地 ・立地、予算、蔵書数、蔵書の年間増加数、年間総貸出点数、業務別職員数（内、過去数年間の採用者数、司書有資格者数）、収容座席数 ・図書館サービスの種類と内容 ・見学先の図書館に期待すること、改良すべき点、全体の感想等 		
レポート作成時の留意事項・ポイント（参考文献の記入または添付要） <ul style="list-style-type: none"> ・事前に見学希望の図書館にインタビューの申し込みを行うこと。 ・各種データは『日本の図書館：統計と名簿』やインタビューでしっかり調べること。 ・公民館図書室、大学図書館、学校図書館、国立国会図書館など公共図書館以外をレポートした場合は、機械的に再提出になります。 ・単館を取材すること。〇〇市立図書館全部等複数館のレポートは機械的に再提出となります。 ・設題で指示した数値について、調べ方が甘く「不明」という回答や未記載が多い場合、機械的に再提出となります。 		
総評基準についてのメッセージ <ul style="list-style-type: none"> ・調査した公共図書館について客観的に記述しているか、調査を通して設題にある諸データ全て、公共図書館に期待すること、感想、課題について書かれているかを重点的に評価します。 		
参考書等の紹介 日本図書館協会 日本図書館：統計と名簿2023 日本図書館協会 9784820423126 ランガナタン 著、竹内 哲 解説 図書館の歩む道：ランガナタン博士の五法則に学ぶ 日本図書館協会 9784820410003 後藤敏行 図書館員をめざす人へ 増補改訂版 勉誠社 9784585300144 山本順一 新しい時代の図書館情報学 有斐閣 9784641220102 猪谷千香 つながる図書館 筑摩書房 9784480067562 日本図書館協会多文化サービス研究委員会 多文化サービス入門 日本図書館協会 482040430X		

科目コード	科目名	添削者名
5703	図書館情報技術論	林口 浩士 笠井 詠子
<p>使用テキスト 3訂 図書館と情報技術 検索技術者検定3級対応</p> <p>著者名 田窪直規 編集 岡 紀子・田中邦英・ 発行所 樹村房 田村俊明・徳田恵里 著</p>		
<p>設題（字数指定 2,000字）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・司書（図書館職員）が図書館の運営に携わる中で、あるいは、利用者が図書館を利用する中で、情報技術が活用されている場面を想定し、その状況を説明してください。その際、活用されている情報技術の名称及びどのような技術なのかについても含めてください。 ・その上で、記述した活用場面において、該当の情報技術を活用することのメリットと考えられるデメリットについて、それぞれ具体的に述べてください。なお、デメリットの記述量はメリットの記述量を超えないよう収めてください。 ・文章の最後に、文中で述べた「活用されている情報技術の名称」を例示の形に倣って挙げておくこと。 例「情報技術の名称： (1) ○○○ (2) △△△ (3) □□□・・・」 		
<p>レポート作成時の留意事項・ポイント（参考文献の記入または添付要）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキストに記載されている内容の情報技術を挙げること。 ・上記に加えてテキストには無い情報技術を挙げてもよい。例えば、執筆者自身の仕事で使用している情報技術や使用経験のある情報技術等。 		
<p>総評基準についてのメッセージ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レポート作成上の留意事項・ポイントが守られているか。 ・論文の基本的な構成（書式、章立て、文体の統一、見出し、引用等）が考慮されているか。 ・参考文献の情報が正確に記載されているか。 ・テキストや参考文献の内容の理解度を判断する。 ・レポート執筆者独自の着眼点も評価する。 ・生成系のAIサービス（AI機能が組み込まれた検索エンジンやOS等も含む）を利用して得た文章を自分の文として使用しないこと。用いたと推認される場合は不合格とするので注意すること。 		
<p>参考書等の紹介</p> <p>根本 彰 情報リテラシーのための図書館 日本の教育制度と図書館の改革 みすず書房 978-4-622-08650-5</p> <p>山本 順一 監修、塩崎 亮、今井 福司、河島 茂生 編著 図書館情報技術論：図書館を駆動する情報装置 ミネルヴァ書房 978-4-623-09390-8</p>		

科目コード	科目名	添削者名
5704	図書館制度・経営論	毛利 和弘
使用テキスト 図書館制度・経営論 改訂版		
著者名 毛利和弘 発行所 近畿大学通信教育部		
<p>設題（字数指定 2,000字） 図書館の組織を5点挙げ、それぞれについて簡潔明瞭に述べた後、主題司書(サブジェクト・ライブラリアン)の育成のためにはどのような図書館組織を構築することが望ましいか、貴方自身の考え方を含め記してください。</p>		
<p>レポート作成時の留意事項・ポイント（参考文献の記入または添付要）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・箇条書きでなく、レポート・論文作成法的な文章で書くこと。 ・設題の内容をよく理解し、設題の順に留意し、自分の言葉で文章をまとめること。 ・テキスト及び参考文献から引用する場合、出典（書誌事項）を明確にすること。 ・テキスト以外の参考文献を効果的に活用すること。 ・感想文やエッセイではなく、指定された教材等の学習成果を明確に反映させ、学術性に留意すること。 ・本文文字数は、1,900字以上であること。 		
<p>総評基準についてのメッセージ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキストなどの丸写しは評価しません。 ・記述内容が論理的であるか、結論を述べているかを評価します。起承転結に留意。 ・テキストをよく読んで内容を理解し、レポートの作成に取り組むこと。 ・テキストのみならず、他の参考文献を活用し、その学習成果を明確に反映させること。 ・他の人のレポートの丸写し、写し割合の多いものは評価しません。 		
<p>参考書等の紹介</p> <p>高山正也 編、高山正也 他共著 図書館経営論 改訂 樹村房 978-4-88367-073-4</p> <p>岩猿・大城・浅野 著 大学図書館の管理と運営 日本図書館協会 4-8204-9201-2</p> <p>Peter Hernon, John R. Whitman [著] 永田治樹訳 図書館の評価を高める：顧客満足とサービス品質 丸善 4-621-07085-1</p> <p>報告書『これからの図書館像』（文科省ホームページに公開） 文科省「図書館の設置及び運営上の望ましい基準(以下、望ましい基準)」テキスト「資料編」収載</p> <p>進藤達郎 著『図書館員のスキルアップとサブジェクト・ライブラリアン：大学図書館にとっての専門性』情報の科学と技術 2005年55巻9号</p>		

科目コード	科目名		添削者名																				
5705	図書館サービス概論		柳 勝文																				
使用テキスト 図書館サービス概論																							
著者名 柳 勝文		発行所 近畿大学通信教育部																					
設題（字数指定 2,000字） 身近な公共図書館（都道府県立より、市町村立が望ましい）を観察し、このテキストに書いてあることと比較しつつ、その図書館の特徴を述べ、またあなたの具体的で実現可能な希望を列挙してください。																							
レポート作成時の留意事項・ポイント（参考文献の記入または添付要） <ul style="list-style-type: none"> ・本文を1900字以上、書くこと ・基本的なサービスと対象別サービス双方の実態について書くこと ・できるだけ自分で調べて、近隣の同規模自治体や平均値などと比べて、相対的に評価（例えば、「人口一人当たりの蔵書数・貸出数」）すること 																							
総評基準についてのメッセージ <ul style="list-style-type: none"> ・諸データは相対的に評価されていますか ・あなたの希望は具体的で実現可能ですか 																							
参考書等の紹介 <table border="0"> <tr> <td>日本図書館協会</td> <td>市民の図書館</td> <td>日本図書館協会</td> <td>978-4820476009</td> </tr> <tr> <td>日本図書館協会</td> <td>日本の図書館：統計と名簿</td> <td>日本図書館協会</td> <td>978-4820423126</td> </tr> <tr> <td>日本図書館協会</td> <td>図書館年鑑</td> <td>日本図書館協会</td> <td>978-4820424024</td> </tr> <tr> <td>山本宣親</td> <td>図書館づくり奮闘記</td> <td>日外アソシエーツ</td> <td>978-4816925467</td> </tr> <tr> <td>M. K. バックランド</td> <td>図書館・情報サービスの理論</td> <td>勁草書房</td> <td>978-4326000562</td> </tr> </table>				日本図書館協会	市民の図書館	日本図書館協会	978-4820476009	日本図書館協会	日本の図書館：統計と名簿	日本図書館協会	978-4820423126	日本図書館協会	図書館年鑑	日本図書館協会	978-4820424024	山本宣親	図書館づくり奮闘記	日外アソシエーツ	978-4816925467	M. K. バックランド	図書館・情報サービスの理論	勁草書房	978-4326000562
日本図書館協会	市民の図書館	日本図書館協会	978-4820476009																				
日本図書館協会	日本の図書館：統計と名簿	日本図書館協会	978-4820423126																				
日本図書館協会	図書館年鑑	日本図書館協会	978-4820424024																				
山本宣親	図書館づくり奮闘記	日外アソシエーツ	978-4816925467																				
M. K. バックランド	図書館・情報サービスの理論	勁草書房	978-4326000562																				

科目コード	科目名	添削者名
5706	情報サービス論	毛利 和弘
<p>使用テキスト 情報サービス論 改訂版</p> <p>著者名 毛利和弘 発行所 近畿大学通信教育部</p>		
<p>設題（字数指定 2,000字） レファレンス業務の保守理論と自由理論のそれぞれの主張を述べた後、これらの理論に関連させ、今日のレファレンスサービスはどうあるべきか、貴方自身の考え方を含め記してください。</p>		
<p>レポート作成時の留意事項・ポイント（参考文献の記入または添付要）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・箇条書きでなく、レポート・論文作法的な文章で書くこと。 ・設題の内容をよく理解し、設題の順に留意し、自分の言葉で文章をまとめること。 ・テキスト及び参考文献から引用する場合、出典（書誌事項）を明確にすること。 ・テキスト以外の参考文献を効果的に活用すること。 ・感想文やエッセイではなく、指定された教材等の学習成果を明確に反映させ、学術性に留意すること。 ・本文文字数は、1,900字以上であること。 		
<p>総評基準についてのメッセージ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキストなどの丸写しは評価しません。 ・記述内容が論理的であるか、結論を述べているかを評価します。起承転結に留意。 ・テキストをよく読んで内容を理解し、レポートの作成に取り組むこと。 ・テキストのみならず、他の参考文献を活用し、その学習成果を明確に反映させること。 ・他の人のレポートの丸写し、写し割合の多いものは評価しません。 		
<p>参考書等の紹介</p> <p>竹内さとる著 ランガナタン博士の五法則に学ぶ 日本図書館協会 978-4-8204-1000-3</p> <p>情報リテラシー教育の実践 ―すべての図書館で利用教育を― 日本図書館協会 978-4-8204-0925-0</p> <p>図書館利用教育ガイドライン（合冊版） 日本図書館協会 4-8204-0115-7 ※日本図書館協会ホームページにて無料公開</p> <p>毛利和弘 著 文献調査法 [第11版] DBジャパン ISBN 未定 報告書『これからの図書館像』（文科省ホームページに公開）</p>		

科目コード	科目名	添削者名
5707	児 童 サ ー ビ ス 論	蟹瀬 智弘 松田 ユリ子
<p>使用テキスト 児童サービス論</p> <p>著 者 名 笹倉 剛、蟹瀬智弘、 杉本ゆか</p> <p>発行所 近畿大学通信教育部</p>		
<p>設題（字数指定 2,000字） 最寄りの公共図書館を1つ選んで訪問・調査し、テキストの記述を踏まえた上で児童サービス全般における資料の現状と課題について述べなさい。</p>		
<p>レポート作成時の留意事項・ポイント（参考文献の記入または添付要）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査のポイント：分類、配架、資料の種類とそれぞれの充実度、サービス対象ごとの充実度 ・レポートには図書館の正式名称・所在地・訪問日と時間帯を明記すること。（複数回訪問した場合は全て書いてください。） 		
<p>総評基準についてのメッセージ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・訪問調査した図書館の特徴が明記されているか。 ・テキストの記述をよく読んで児童サービスの基礎を理解できているか。 ・設題の主旨に基づいて論理的に展開されているか。 ・論説文としての体裁が整えられているか。 		
<p>参考書等の紹介</p> <p>日本図書館協会児童青少年委員会 他編 児童資料・資料組織論（JLA図書館実践シリーズ、19. 児童図書館サービス；2） 日本図書館協会 9784820411079</p> <p>堀川照代 編著 児童サービス論（JLA図書館情報学テキストシリーズ3, 6） 日本図書館協会 9784820419099</p>		

科目コード	科目名	添削者名
5709	図書館情報資源概論	森 美由紀
<p>使用テキスト 図書館情報資源概論</p> <p>著 者 名 森 美由紀 発行所 近畿大学通信教育部</p>		
<p>設題（字数指定 2,000字） 公共図書館が提供しているネットワーク情報資源の特徴や事例を述べ、特にデジタルネイティブ世代（若年層）の利用者を増やすためにどのようなPR・広報が必要かを考え、具体的な戦略を提案してください。</p>		
<p>レポート作成時の留意事項・ポイント（参考文献の記入または添付要）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1、2、3や(1)、(2)、(3)などの見出し番号と見出しを付けて記述すること。 ・参考引用文献の著者名、書名、出版社、出版年、ページ数等を本文の末尾に記述すること。 ・テキストの丸写しや要約しただけの文章は不可とします。 		
<p>総評基準についてのメッセージ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レポート作成上の留意点事項・ポイントが守られているかどうかを判断する。 ・問題についての基礎的知識があるか、論文の構成がきちんとなされているか、自己の言葉で書かれているかなどを判断する。 		
<p>参考書等の紹介</p> <p>馬場俊明 編著 図書館情報資源概論 三訂版 日本図書館協会 978-4-8204-2309-6 岸田和明 編著、小山憲司、平野英俊、村上篤太郎 著 改訂 図書館情報資源概論 樹村房 978-4-88367-338-4</p>		

科目コード	科目名	添削者名
5710	情報資源組織論	杉本 ゆか 赤山 みほ 田村 俊明
使用テキスト 情報資源組織論 著者名 田窪直規 発行所 樹村房		
設題（字数指定 2,000字） 指定したキーワードをすべて使って、各設問の解答を完成させてください。 1. 現在、多くの公共図書館や大学図書館で、外部の書誌データを利用した目録作成業務が行われています。集中目録作業と分担目録作業〔＝共同目録作業〕、それぞれの特徴（意味や役割、課題など）を明確にし、さらに今後の目録作成業務のあり方について自らの見解をまとめてください。（1,000字） <キーワード：MARC、集中目録作業、分担目録作業、総合目録、書誌ユーティリティ> 2. 地域の図書館（公共図書館）での現地調査もしくは調査対象館のHPの蔵書検索により、「蔵書の所在記号（背ラベル）の付与のしかた」について複数ケースを洗い出し、気づいたことをまとめてください。さらに、調査で得た内容や関連情報をもとに、書架分類と書誌分類という二つの点から、NDCの分類を活用することの意義や課題について考察してください。尚、調査対象館は“NDCを採用する近隣の公共図書館”で、取り扱う情報資源は“NDCが付与されている紙資料”とします。（1,000字） <キーワード：書架分類、書誌分類、目録、配架（テキストでは排架を使用）、所在記号>		
レポート作成時の留意事項・ポイント（参考文献の記入または添付要） <ul style="list-style-type: none"> ・設問は二つあります。指定された字数の中で、両者の回答内容がほぼ同じ位の分量（文字数）になるよう心がけましょう。 ・テキストをもとに、まず情報資源組織化の目的や意義、指定したキーワードの意味について理解した上で、レポートの作成に取り掛かってください。 ・設問1では、目録規則やその構成、データ・フォーマット、目録作成の手順などについての詳細な説明、利用者側の利点に関わる論述は控えめにしましょう。 ・設問2の調査内容には、①調査対象の図書館の名称、②調査の方法（現地調査、当該図書館のHPによる蔵書検索いずれを行ったのか）、③具体例としての所在記号（タイトル著者名、出版者名といった書誌情報も加える）④気づいたこと、⑤HPによる蔵書検索を行った場合は、参考文献欄に図書館名とHPのURL、を必ず記入するようにしてください。箇条書き可。 また、NDCの歴史（成立背景）、分類作業の手順、分類項目、分類規程に関わる詳細な説明は控えめにしましょう。 <ul style="list-style-type: none"> ・誤字や脱字に気をつけましょう。特に、テキストで用いられている基本的な用語の誤字が目立ちます。書いた内容を再度読み返し確認するようにしましょう。 ・論文の構成を考慮した論述を心がけましょう。 <レポート作成における留意点> ①前おき部分〔「序論」もしくは「はじめに」〕 ⇒何故、このテーマを取り上げるのか明確にすると尚良い ②本論部分 ⇒出来るだけ自分の言葉で要点をわかりやすくまとめる（文章すべてがテキストの丸写しにならないように！） ③結論部分〔「結論」もしくは「おわりに」〕 ⇒本論で得た情報をもとに、結果として何を学んだのか明確にする（設問1、設問2それぞれのマトメ＋自己の私見） <div style="text-align: right;">〔次ページへ続く〕</div>		

総評基準についてのメッセージ

当科目における評価の基準は以下のとおりです。

- ・設題で設定したキーワードの意味を理解した上で、それらをすべて使って解答していること。
- ・論文の構成を考慮した論述になっていること。

⇒上記、<レポート作成における留意点>を参照

- ・得た情報をもとにどれだけ理解しているのか、自分の言葉で表現していること。
設問1の「目録」、設問2「NDC」、いずれの内容についても理解が出来ていること。
- ・設問1、設問2、それぞれの説明に対する分量（字数）のバランスが取れていること。

参考書等の紹介

志保田 務 他	分類・目録法入門 新改訂第6版	第一法規	9784474069541
柴田正美 他	情報資源組織論 3訂版	日本図書館協会	9784820419150
榎本裕希子 他	情報資源組織論 第2版	学文社	9784762028892
那須雅熙 他	情報資源組織論及び演習 第3版	学文社	9784762030123
竹之内 禎 他	情報資源組織論	東海大学出版部	9784486021889
日本図書館協会用語委員会	図書館用語集 4訂版	日本図書館協会	9784820413110
日本図書館情報学会用語辞典編集委員会	図書館情報学用語辞典 第5版	丸善出版	9784621305348

科目コード	科目名		添削者名
5801	図 書 ・ 図 書 館 史		吉植 庄栄
使用テキスト 図書・図書館史			
著 者 名 安藤 勝		発行所 近畿大学通信教育部	
設題（字数指定 2,000字） 日本または西洋のどちらかを選び、それぞれの時代（古代、中世、近世、近代以降）の図書館発展の特徴をコンパクトに要約し、かつ私見（400字程度のまとめ）を述べてください。			
レポート作成時の留意事項・ポイント（参考文献の記入または添付要） <ul style="list-style-type: none"> ・テキストをよく読んで、各時代の概要（特徴）をバランス良くまとめてください。 ・各時代の図書館の役割を考察してください。 ・情報伝達媒体とその生産技術・生産量や図書館利用者の変化にも必ず言及してください。 			
総評基準についてのメッセージ <ul style="list-style-type: none"> ・具体的、簡潔に要点が整理されているか。 ・各時代の文量のバランスはよいか。 →例えば、近現代が無い、僅少は再提出 ・製紙、印刷技術の向上による本の大量生産の流れを理解し、それが現代の誰でも使える図書館に至っていることが書かれているかどうか。 ・図書館の存立を支えてきた歴史的社会的背景に注目しているか。 →事実の羅列、列挙に終始したレポートは再提出。 ・章・節に分けて時代や話題ごとに小見出しをつけて読みやすくしているかどうか。 			
参考書等の紹介			
寺田光孝 他	図書及び図書館史	樹村房	978-4883670130
岩猿敏生	日本図書館史概説	日外アソシエーツ	978-4816920233
佃 一可 編	図書・図書館史	樹村房	978-4883672110
綿貫豊昭	図書・図書館史	学文社	978-4762024368
千 錫烈 編著	図書・図書館史	学文社	978-4762022005
三浦太郎 編著	図書・図書館史	ミネルヴァ書房	978-4623084722
山口広文	情報革命の世界史と図書館	樹村房	978-4883673247
新藤 透	図書館の日本史	勉誠出版	978-4585200673
高山正也	図書館の日本文化史	筑摩書房	978-4480075086

科目コード	科目名	添削者名								
5804	図書館情報資源特論	森 美由紀								
<p>使用テキスト 図書館情報資源特論</p> <p>著者名 竹田芳則 発行所 近畿大学通信教育部</p>										
<p>設題（字数指定 2,000字） 地域資料サービスの重要性を具体的な事例を挙げて論じ、さらにデジタルアーカイブ化がその役割にどのように貢献するかをまとめてください。また、未来における地域資料サービスのあり方について、技術革新や社会的課題（例えば高齢化や地域コミュニティなど）にどのように対応できるかについても論じてください。</p>										
<p>レポート作成時の留意事項・ポイント（参考文献の記入または添付要）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1、2、3や(1)、(2)、(3)などの見出し番号と見出しを付けて記述すること。 ・参考引用文献の著者名、書名、出版社、出版年、ページ数等を本文の末尾に記述すること。 ・テキストの丸写しや要約しただけの文章は不可とします。 ・技術革新や社会的課題でどのようなテーマを設定するのは自由です。 										
<p>総評基準についてのメッセージ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レポート作成上の留意点事項・ポイントが守られているかどうかを判断する。 ・問題についての基礎的知識があるか、論文の構成がきちんとなされているか、自己の言葉で書かれているかなどを判断する。 										
<p>参考書等の紹介</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 15%;">蛭田廣一 著</td> <td style="width: 35%;">地域資料サービスの実践 補訂版</td> <td style="width: 20%;">日本図書館協会</td> <td style="width: 30%;">978-4-8204-2214-3</td> </tr> <tr> <td>時実象一 著</td> <td>デジタルアーカイブの新展開</td> <td>勉誠社</td> <td>978-4-585-30009-0</td> </tr> </table>			蛭田廣一 著	地域資料サービスの実践 補訂版	日本図書館協会	978-4-8204-2214-3	時実象一 著	デジタルアーカイブの新展開	勉誠社	978-4-585-30009-0
蛭田廣一 著	地域資料サービスの実践 補訂版	日本図書館協会	978-4-8204-2214-3							
時実象一 著	デジタルアーカイブの新展開	勉誠社	978-4-585-30009-0							